

目的 甘・酸・塩味食品の質が近年急速に変化し、これらの食品に対する人びとの好みも着しく変化してきた。それゆえ種々の食品の食味（甘・酸・塩味）イメージを問うことも、これらの食品に対する好みの程度を調査し、食味嗜好と食性的体質との関係を解明しようとした。

方法 女子大生約200名を対象に、体質的味覚嗜好性、食品の食味イメージ、食品の味覚的嗜好、その他について多項目のアンケート調査を実施して『食味嗜好指数』等を用いた統計処理を行なった。

結果 1) 甘・酸・塩3食味に対する嗜好度を調査し、『嗜好指数』に基づき被検者を「甘味嗜好群」と「反甘味嗜好群」の2群に大別した。2) 各食品の甘・酸・塩味に関する食味イメージにつき調査したところ、上記2群とも食味イメージに大差なく、本調査群（青春期女子）にとっては3食味の判定能力はほぼ一定のレベルにあることが知られた。3) 本群の食品嗜好度につき調査した結果、上位に甘味食品、次いで帯酸甘味食品、中位以下に帯塩味食品が現れる傾向が見られた。4) 上記のような傾向は、本被検者群が圧倒的多数の甘味嗜好群と比較的少数の反甘味嗜好群とから成っているために生じたものである。5) 本群の食味イメージ調査に基づき、各種食品を『甘味食品』と『反甘味食品』の2群に大別した。6) 上記の2食品群に対する被検者の嗜好度と、そのアルコール飲料嗜好度との関係を調べた結果、『反甘味食品』嗜好群の方が比較的強いアルコール嗜好性をもつことが見いだされた。